

黒子の

バ

成年向け

スケ本



床つめたあ…
あれ？

な、なんで私
体育館に…
バスケのボール…？
…！！な、なんで
こんな格好…！！？

し、下…！！
なんも履いて
ない下…！！？
きやああ！

あはあん！お姉様あ！
ここは私の夢！ドリームで
ございますの！
ですから皆様の
全ては私の自由！

ほらあ
私のゴールを
こうしてお姉様に
見せ放題っ！

お姉様の
愛のダंक
シニートを今や遅しと
待ちわびて…！

そんなもん見せんな！
…にしてもほんと
男子みたいいな淫夢
見るのね、あんた

あ…

ドクン

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

ほおら？
ご覧下さい
まし。

怒ると恐ろしい
固法先輩も、私の夢の中
ではあんなあられも
ない姿を…

…黒子、ひよっと
して昨日、固法先輩に
なんか怒られた？

パン

パン

パ

パン

ドキ
ドキ
ドキ

ドキ
ドキ



まあ、固法先輩ったら！
バスケットボールに勝るとも
劣らないおっばいを2つも！

アッパッ

アッパッ

アッパッ

アッパッ

アッパッ

アッパッ

アッパッ

アッパッ

なんて羨ましい！
絞ったらきつと牛乳が…

…その辺にしてあげなさい
黒子。ストレス溜まってるの
は分かったから…お願い

ストレスと言うなら
お姉さまも…これなら
いかがでしょう？

おお…！い、今なら
門限破っても…って
そうじゃない
でしょ！？

みんな…
めくらないで！
下、なんか穿いて！



げえ……!!
婚后光子!
夢の中まで……!!

あんだ、
人を裸に
させといて、
げえって……



パルッパルッ
パルッパルッ
パルッパルッ
パルッパルッ

毎日、ツルツルに
剃ってる私と違って
剛毛ですわね
やはり貴女より私の方が
女として品が……

……いや あんたが
変態なだけという
よりいつ剃って
たのよ……

げえ……！

そう言うお姉さまこそ……
つて、なんで木山春生が……
脱ぐ女の時のトラウマ
かもしれませんわ……

……念のため聞くけど
なんで剃……

それはお姉様に
いつ舐……

もう……

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ



ふっふっ！
御坂さん白井さん
全裸バスケットって
都市伝説知ってます？

：私の淫夢まで
都市伝説だなんて
ほんと都市伝説が
好きですわね
佐天さんは

それ：確実に
都市伝説じゃないから
佐天さん

はぁ

はぁ

はぁ

んんん

ズル

ズル

ズル



お姉様の胸はバスケットボールより遥かに小さいものの弾力はなかなか…あはあ！至極のドリブルですのおお！

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

黒子お…！
起きたら絶対…！
覚えてなさいよ！

ちなみに、ガチでバスケット勝負を挑んでも私には絶対…

どこに瞬間移動しようか…あんたを本物のゴールにシュートしてやるから！

ピク

ムニ

ムニ


ムニ

ムニ

ムニ

ムニ





おお恐っ！
さあ：夢の中でたっぷり汗を流して
明日からまた風紀委員の一員として
学園都市の治安に貢献する私！

なんて素敵なストレス
解消法なんですか！
ムフフッ！
あなたも
加わりませんか…？

くそ百合テクニック
～世界一下品な百合～

ここから先は、バスケットがりで、レス萌え!が企画、ストーリー、イラストなどを手がけた「くそ百合テクニック」のヒロイラノベを特別に公開しちゃいます(≧▽≦) 企画の原案は、かつて僕がキルタイムさんでやらせて頂いていたアンソロの仕事の中で、唯一単行本に収録出来なかったものを再構成したものです。冒頭は爆乳幻想3というアンソロに収録されています。

瑠衣 (るい)



自分で言うのもなんですが、クソみたいなキャラクターしかいません(笑) 基本ギャグなんですが、「ギャグなんですよ」って合図が最後までないまま、よく見ると全てがギャグだった(笑)…というのが、うちの絵師から買った評価です。百合なのに、男子禁制ではなく女子禁制(笑)ではないと言われるほど、アホで下品で、全てがズレています。良かったら、引き続きお楽しみ下さい(▽)

理屈を並び立てて、人を見下すのが大好きなお嬢様。DSのようでDMでもある。瑠衣にお金を渡して、レスの援助交際をしている。

借金、親の蒸発、学力がないの三重苦。だが、勘から来る、物分かりの早さは異常。口癖は「お金、お金え!」

愛理香 (えりか)



多分はじめて…?
底辺百合
ドラマ♪

その他の登場人物

綾 (あや)

瑠衣のバスケット仲間。家は金持ちなのに不良。学力も常識もあるが、それを否定したい衝動のほうが強く、結果は犯罪。

瑞穂 (みずほ)

場の空気を第一に考えるギャル。友達は生き甲斐。結果は脱法ハーブ。



「もう瑠衣とは別れる。」

金輪際、関わるんじゃないわねえ！」

「くくくっ！そうやって親友気どりにしてるのが、貴女程度にはお似合いですわ。綾」

「なんだと…？」

「瑠衣の友達を自負してるらしいじゃない？」

けど…貴女は瑠衣に何をしてあげて、私の前にそのツラ出せるのかしらね…？」

「「こちゃ」「こちゃと…！」

「いいますわよ、「こちゃ」「こちゃと。」

貴女の家…お金持ちじゃない？」

両親とは仲悪いみたいだけど」

「…それがどうした!？」

「そこ」からして愚かですわ。

親と仲良くして…得は多々あれ

損なんかない…。お金もコネも、

貴女はつまらない反抗心で捨てた。

それが私にとって、どれくらい

大した事ない人間に映っているか…知って恥じるべきですわ」

「てめえのその物の見方が腐ってんだよ！」

「腐ってなんかいませんわ。」

私は、瑠衣をお金で救った。しかも自分のお金で。貴女にだって…親のお金で瑠衣を借金から救う事はできたはず…」

「そんなの…ダチがする事

じゃねえだろ!相談くらいは

乗ってやったけど…

それ以上の事なんか…」

「だから!貴女は所詮

その程度の人間なんですわ!

瑠衣と同レベルの貴女が、

相談なんかされて

瑠衣を救えるわけじゃない!？」

所詮…人を救うにはお金、知恵、

コネ…そういった 資本、

必要なんですわ!その資本を

自ら捨てるようなバカが…

私に偉そうな口

聞かないで下さるっ!？」

「……」

「私と貴女では…将来、

社会に貢献する規模が違いますの！愚民ごとき
が私に関わらないで下さる！？」

「…言いたい事は済んだか？」

「な…なんですかの？…！？…な、ナイフ…」

「悪いな。私…お前の言葉で

完全にイッちまったみてえだ…」

「わ…私をどうする気ですかの…？」

「確かに…お前と私じゃ、

社会に貢献する規模が違えよ。

なんせ私は…これからうん十年は

牢獄だろうからな…」

「…あなたみたいなのが、犯罪者予備軍…

いや、犯罪者なんですわ！」

「ああ。そしてお前みたいなのが…

社会のお上に立つ、人間のクズだ。…死ぬ」

「ひっ…ひっいいい…！！！」

「やめてえっ…！」

ズラッ…

「る…瑠衣…」

「瑠衣…見てる。これがお前を

地獄に突き落とされた女の…哀れな最期だ」

「綾…」

「瑠衣が生きて味わった地獄…。

せいぜい地獄で味わえ？あばよ…」

「あばよ…じゃねええええ…」

「うっ！いつてっ…！」

「ひぎっ…ひ、今ですわ！」

「あっ！くそ…！あいつ…逃げやがった！

どこまでクズなんだ！

瑠衣に助けて貰っておきながら！」

「違う…！私は愛理香を助けたんじゃない！

…綾を助けたんだ！」

「は、ハア…？」

「…っ！（ばちん）」

「痛っ…！」

「ふざけんな、綾っ！お前…

私のために人生台無しに

する気だったでしょ！？」

ボゴッ
カッ

わっ



「…許せなかったんだ、あいつが！あいつささい
なくなれば…お前はもう苦しまなくて済む！
バスケも続けられる！」

「お前がいなくてバスケなんかして、
楽しいわけないだろ…！」

「じ…じゃあ私も…！お前無しのバスケなんか
楽しいはずないだろ…っ！」

「えっ…？」

「あ…いや…」

「……」

「……」

「……」

「…悪い。気まずい沈黙…作っちゃった…」

「…ごめん。私…」

自分の都合だけで、バスケ辞めて…」

「いや…。仕方ねえよ。金…」

無かったんだろ…？…ぶっちゃけ、

愛理香を殺せば…また2人で

バスケできんじゃないか…なんて、思っ

たんじゃないんだ。



「どう転んでも…もうお前と
一緒にバスケはやれねえ。それで…自暴自棄に
なったんだ…」

「…綾さ。やっぱ

不良のふりして頭いいんだよね。

解ってたんじゃない…」

「お前とのバスケを、愛理香に…」

金にとられたみたいで…

悔しかった…！

なんだかんだいって、

お前への腹いせでもあったんだよ？

私より…愛理香をとったっていう…な？」

「綾…」

「自分がこんな女々しい奴

だったなんて…驚いたよ」

「綾っ…（ぎゅっ）」

「お…おいおい？どうした…？」

「私を…抱いて」

「……は？」

つづく



お疲れ様でした!今回は超電磁砲です。

レズものやっていると既に通っている道のような気もするのですが、意外にも初めてでして、念願叶って…という形になりました。

超電磁砲が流行っていた当時は健全ゲーム製作のほうがメインになってしまっていたからなんですけどね(^_^;)

タイトルの内容が別の作品のパロディなのはご承知の方も多いと思うのですが、今回残念なことに、その‘別の作品’で大きな事件が起きてしまいました。

知らない方に説明しておきますと、ジャンプの人気マンガ‘黒子のバスケ’は、何故かイベントへの脅迫が相次ぎ、2012年の冬、とうとうコミケへの脅迫があり、コミケは‘黒子のバスケ’本を出す事を禁止する措置を取らざるを得なくなりました。(2012年12月10日現在)

ニュース記事によると、会場であるビッグサイト側が「黒バス本発禁の処置をしないと、来年以降は貸せない」と話したそうで、コミケ側も妥協せざるを得なかったそうです。

過去にも脅迫はありましたし、発火事件などもありましたが、今回は1ジャンルのみ禁止という、異例の事態になりました。

楽しみにしていたサークルさん、お客さん達の気持ちが、脅迫一つで失われるのは、一個人として悔しくて仕方ありません。

男性の方は、仮に東方が発禁になるレベルだと考えてみて下さい。どれだけの人が悲しみ、影響を受けるでしょうか。

スペースは閑散とし、活気が無くなります。わざわざ地方から来る人もいるのに…です。

同人誌を刷るのはタダじゃありませんから、金銭面での損失も勿論ありますが、女性向けの場合、特に無念なのが、‘楽しい交流の場が怒りと憤りの場になってしまった’という点ではないでしょうか。

正直、この本も不謹慎だと思って、発行を遅らせることも考えたのですが、色々な怒りもあり、当初の予定通り出す事にしました。

もし、黒バスファンで、この本の存在を知ってお怒りになる方がいましたら、この場を借りて深くお詫び致します。でも、創作者というのは、こうしたやり方で戦わなければいけないと僕は思うんです。明らかにへ理屈なんです、へ理屈で抗うくらいしか、作家には出来ないものなんです(>_<)

12月10日現在、コミケ側から代替案は出ていないようで、急な事だから仕方ないと思うのですが、何カ所かに分かれてもいいので、黒バスだけでも他の会場でやれないか…と思ってしまいます。

勿論、犯人が悪いのですが、会場側の理由でこの結果になった以上、次回以降ビッグサイトが会場である理由は、大きさと利権だけになります。

以前にも書きましたが、東京の人は500円で来れる所を、地方の人は50000円かけて来ている人もいます。本来、地方の人だってこの50000円を同人誌代にしたいはず。ヲタなら特に。漫画の規制に積極的な東京都で何故…という話も聞きますし、リスクの分散を考えないといけなのかもしれません。

二度三度、今回のような事があつたら、それはコミケ側にも責任はあると言わざるを得ません。

しかしながら、コミケスタッフの皆様の中にも察して余りある所があり、このような事が二度と起きないよう、ただ祈るしかありません。

■ 奥付

誌名:黒子のバスケ本

発行:黒 お湯の香り

サークル:レズ萌え!

印刷所:母淫印刷

発行日:2012年12月31日

レズ萌えコミックス81

※この本は成年向けです!

連絡先aperitif.itou@gmail.com

サイト<http://rezumoe.o.oo7.jp/r18top.htm>

コミケは参加者全員のお祭りのようなもので、他ジャンルだから「ざまあw」「マジ他人事w」なんて理屈が通るなら、僕はコミケに参加したくありません。

どんなに憤りがあっても、諦めがあっても、楽しさに差があっても、コミケは参加者同士が繋がる場であって欲しいと心から願います。

■ 素材提供

あやえも研究所さま

<http://ayaemo.skr.jp/>

美琴の

バ

成年向け

スケ本

